

Q2: 「考え、議論する道徳」の授業を実施するためには、どのように発問づくりをすればよいか。

A: 「考え、議論する道徳」の授業を実施するためには、「問題意識をもつ」「自分との関わりで考える」「物事を広い視野から多面的・多角的に考える」「人間としての生き方について考えを深める」の四つの学習活動を授業の中に設定し指導することが大切である。さらに、児童生徒の考えを広げたり深めたりするためには、教材を吟味し、何を考えさせたいのか明確な意図や目的をもった上で、どのような場面でどのような発問や問い返しをするのかを考えなければならない。

<「発問の構成」例>

「考え、議論する道徳」の授業づくり (小学校段階) (中学校段階) より

発問例と四つの学習活動との関わり

<p>導入</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>問題意識に基づく発問 (課題設定)</p> <p>・「〇〇」とは何だろう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #333; color: white;"> <p>問題意識をもつ</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #333; color: white;"> <p>自分との関わりで考える</p> </div> </div>
<p>展開</p>	<div style="display: flex;"> <div style="border: 2px solid black; padding: 10px; width: 60%;"> <p style="text-align: center;">多様な考えを導く発問</p> <p>人物の気持ち・考え (共感的に問う)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・～のときの□□の気持ちはどんなだろう。 ・～のところで□□はどんなことを考えただろう。 ・～のとき□□の心の中はどんなだったか。 ・～のときの□□と同じ気持ちになったことはないか。 <p>人物の在り方 (生き方) ・それに対する考え (分析的に問う・投影的に問う)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・□□が大切にしていることとは何だろう。 ・□□のような生き方についてどう思うか。 ・なぜ□□はそのような行動をしたのか。 ・□□の行動にはどんな意味があるのか。 ・もし□□だったらどうするか。 ・もし□□だったらどう考えるか。 <p>資料のテーマ・それに対する考え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・～はどんなところが問題か。 <p>ねらいとする道徳的価値そのもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本当の「〇〇」とはどんなものか。 ・「〇〇」についてどう考えるか。 </div> <div style="width: 40%; padding-left: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">問い返し</p> <p>考えの根拠を問う発問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜそう考えたのか。 ・(いくつかの考えを整理して) どれが大事だと思うか。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">問い返し</p> <p>機転を促す発問 (批判的に問う)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本当にそうなのか。 ・～といった別の見方もあるがどうか。 ・□□は本当にそのようにしてよかったのか。 ・～という考えにあなたは賛成か、反対か。 </div> </div> </div>
<p>終末</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>問題意識に基づく発問 (自己の振り返り)</p> <p>・「〇〇」とは何だろう。</p> <p style="font-size: small;">課題設定と自己の振り返りとの関連性を高める (授業の入口と出口を近づける)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #333; color: white;"> <p>自分との関わりで考える</p> </div> </div>

① 教材を読み吟味する

時系列的な吟味

- 教材全体の流れを捉える
 - ・何がどのように変化したか、どの場面でどのようなことが問題となるかを把握する。

構造的な吟味

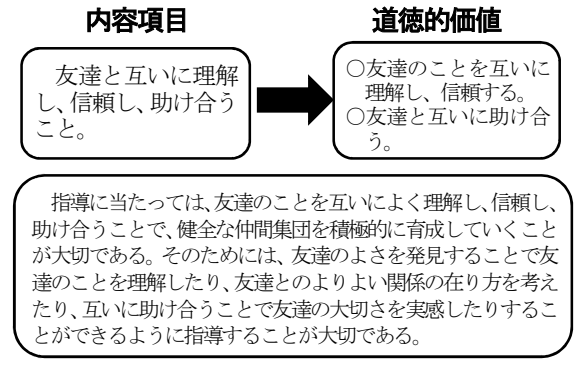
- 人間関係、内容項目の関係を捉え、児童生徒が多面的・多角的に考える場面を押さえる
 - ・登場人物の関係性を整理しながら、言動や考え方の違いを把握する。
 - ・問題となる場面において、どのような内容項目と関連するか把握する。

児童生徒の視点からの吟味

- 児童生徒が何について問題と感じ取るのか、何を疑問に思うのかなどを想定する
 - ・教材のどのような場面で、どのようなことが問題と感ずるか、話し合いたいと感じるか考える。どの登場人物のどのような言動や考え方に共感しやすいか考える。

② 内容項目から道徳的価値や具体的な指導について確認する

内容項目は学習指導要領に示されており、道徳的価値を含む内容を、短い文章で表現したものである。内容項目「B-(9) 友情、信頼」の【第3学年及び第4学年】を例に確認する。



③ 中心発問を考える

1 ねらいに迫るための中心発問を考える

- 中心発問→道徳的価値について、最も児童生徒に考えさせたい場面での発問

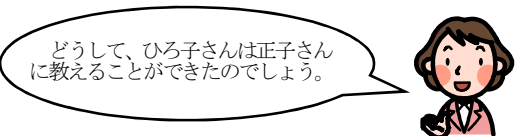
例) 教材「絵はがきと切手」において「友達のことを互いに理解し、信頼する」ことを考えさせたい。

↓

アンケート(＝児童の実態)から、友達との関わり方に理想と現実の差が見られる。

↓

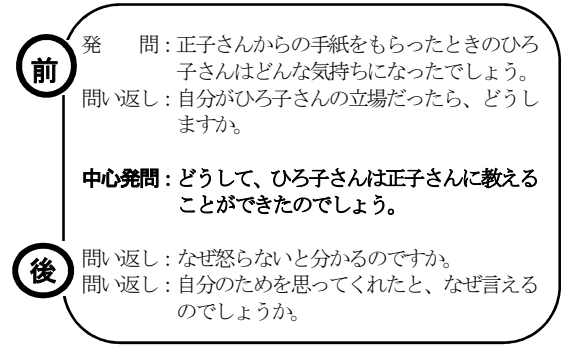
「正子に対してどのように対応することが、友達としてよい関わり方なのか」を考えさせたい。



2 中心発問に対して予想される児童生徒の反応について児童生徒の言葉で考える

- ・意地悪で言っている訳じゃないって、正子なら分かってくれる。
- ・他の子に、間違えて送ってしまったら大変。
- ・正子のためには、やっぱり正しいことを伝えなきゃ。

④ 中心発問を生かすための考えさせる場面や前後の発問や問い返しを考える



教材に描かれている「道徳的な問題」を児童生徒が自分自身の問題として捉え、考えを深めることができるような授業づくりには、「この教材にはどのような問題があるか」「児童生徒が問題として捉えることは何か」といったことを考えながら教材を吟味し、そこから発問や問い返しを考えることが求められる。



【参考資料】

- ・自己研修サポートプログラム「特別の教科 道徳」 R02 総教セ
- ・「栃木県道徳教育ハンドブック」 R02.3 県教委
- ・「考え、議論する道徳」(小学校段階)(中学校段階) H31.3、R02.3 総教セ